様式第１号（第11条関係）

|  |  |
| --- | --- |
| 受付番号 |  |

動物実験計画申請書

年　　月　　日

公立小松大学長　様

申請者名

（動物実験責任者）　　　　　　　　　　印

所属

職名

|  |
| --- |
| 学部長の氏名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　印 |

公立小松大学動物実験規程第11条の規定に基づき、以下の動物実験計画について申請します。

**動　　物　　実　　験　　計　　画**

|  |  |
| --- | --- |
| **課　題　名** |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 実験者区分 | 氏　名 | 所属 | 職名 | 教育訓練の有無 |
| 教育訓練受講年 |
| 動物実験等の経験年数 |
| **動物実験責任者** |  | TEL: |  | □有　□無 |
|  |
| 年 |
| **動物実験実施者** |  | TEL |  | □有　□無 |
|  |
| 年 |
|  | TEL |  | □有　□無 |
|  |
| 年 |
|  | TEL |  | □有　□無 |
|  |
| 年 |
|  | TEL |  | □有　□無 |
|  |
| 年 |

|  |  |
| --- | --- |
| **実験の概要** | ［目的・意義・予想される成果について項目ごとに記入］  （目的）  （意義）  （予想される成果） |
| **動物実験が**  **必要な理由** | □代替手段がない  □代替手段では感度・精度が不十分  □その他［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］ |

|  |  |
| --- | --- |
| **実験実施**  **予定期間** | 開始日：　　　年　　月　　日　　から　　　　年　　月　　日まで  （※審査に時間を要する場合、承認日をもって実験開始日とする。） |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **動物実験計画の種類**  □　試験・研究　　□　教育訓練　　□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | | | | |
| **実験動物** | 動物種  系統 | 性別 | 微生物学的  保証 | 遺伝的保証 | | 匹数 | 入手先 |
|  |  | □有　□無 | □有　□無 | |  |  |
|  |  | □有　□無 | □有　□無 | |  |  |
|  |  | □有　□無 | □有　□無 | |  |  |
|  |  | □有　□無 | □有　□無 | |  |  |
| **飼養保管施設及び**  **動物実験室** | □ 飼養保管施設 |  | | | （承認番号　　　　　　） | | |
| □ 動物実験室 |  | | | （承認番号　　　　　　） | | |
| **飼育方法** | □個別飼育　□群飼育（群飼育の場合の１ケージあたりの匹数：　　匹）  （飼料：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  微生物学的環境　□SPF　　□コンベンショナル  □その他［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］ | | | | | | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **動物実験の内容** | ［具体的に実験処置の内容について記入］ | |
| **想定される**  **苦痛の程度** | □  □  □  □ | ［SCAWの実験動物の苦痛分類に準拠した判断に基づき選択する］  B 動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作  C 動物に対して軽度のストレスあるいは痛み（短時間持続する痛み）を伴う実験  D 避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験  E 無麻酔下の動物を用いて、動物が耐えうることのできる最大の痛み、あるいはそれ以上の痛みを与えるような実験 |
| **実験動物の**  **苦痛軽減方法** | □  □  □  □  □  □ | 短時間の保定・拘束・あまり有害でない物質の注射・採血等、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない  麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。  （薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　　　　　　　　　　　　　　）  （薬剤名及びその投与量・経路を記入：　　　　　　　　　　　　　　　）  科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。  （その理由を記入：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  長時間の保定・拘束が避けられない。  （その理由を記入：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとる等の人道的エンドポイントを適用する。  （人道的エンドポイントの判定を記入：　　　　　　　　　　　　　　　）  その他（具体的に記入：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| **安全管理上**  **注意を要する点** | □  □  □  □  □ | 使用材料の感染性（内容を記入：　　　　　　　　　　　　　）  使用材料の毒性（内容を記入：　　　　　　　　　　　　　）  遺伝子組み換え生物の使用（内容を記入：　　　　　　　　　　　　　）  その他（具体的に記入　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  該当なし |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **安楽死の方法** | □  □  □  □ | 麻酔薬等の使用  （方法・薬剤名：  炭酸ガス吸入  頸椎脱臼  その他（具体的に記入：　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| **動物死体の**  **処理方法** | □  □ | 業者委託（業者名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  その他（具体的に記入：　　　　　　　　　　　　　　　　） |

|  |  |
| --- | --- |
| **備考** |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **動物実験委員会**  **記入欄** | 審査終了日：　　　　年　　月　　日 | |
| 意見等 | |
| 審査結果 | |
| □  □ | 本実験計画は、指針等及び公立小松大学動物実験規程等に適合する。  本実験計画は、指針等及び公立小松大学動物実験規程等に適合しない。 |